



玉類(勾玉・管玉・小玉・切子玉)
 芝生町の千羽ヶ嶽周辺の出土とされる。古墳の副葬品と思われる装身具で、碧玉製の勾玉・管玉や水晶製の切子玉、ガラス製の小玉など。

**胎蔵界曼陀羅図
 両界(金剛界・胎蔵界)曼陀羅図**
 (地藏寺蔵・個人蔵・県指定文化財)

それぞれ阿波藍で染めた縦横4m前後の絹本に金銀泥で描かれている。「高雄曼陀羅」を模写したもので個人所有のものは元々、釈迦庵に納められていたもので、その金剛界曼荼羅と地藏寺の胎蔵界曼荼羅が対となっている。



狩野元信筆雲龍
 (個人蔵・県指定文化財)
 「徳島の文化財」(徳島県教育委員会・徳島新聞社発行)掲載
 墨絵の大幅で、狩野元信(1476~1559)の筆と伝えられる。蜂須賀家より拝領したという由緒からも時代的に古いとみられるものの、元信の筆として残るものがすくないので比較検討がむずかしい。一応伝元信筆としておくべきだろう。(縦121.5cm 横192cm)

**南海地震徳島地震津波碑
 (豊浦神社石碑)**
 (豊浦神社・国登録記念物)

安政の地震の際に多くの被害があったが豊浦周辺の人々は、白染天王社(現・豊浦神社)に集まって難を逃れたことが刻まれている。

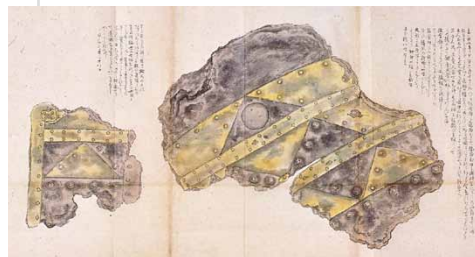


絹本着色桃花孔雀雄・西王母・牡丹孔雀雌図
 (個人蔵・県指定文化財)

松浦春拳特有の手法を用いた緻密な作品で、天保13年(1842)の作。西王母と羽根を広げた孔雀を中心に桃と牡丹を描いた三幅対。西王母が青鳥に守られた故事より図化。

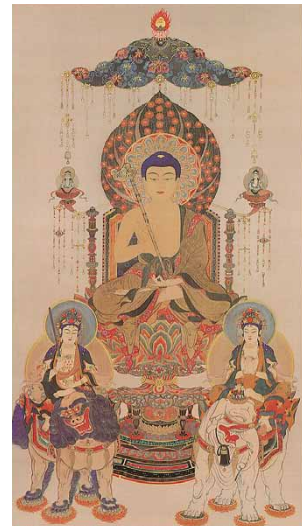
金銅装甲冑片
 (市教育委員会・市指定文化財)

金で装飾された古墳時代中期のカブトとヨロイ。国内で同様に金銅装の甲冑がセットで出土しているのは、伝・仁徳天皇陵だけであり、その稀少性からもヤマト王権との深い繋がりがみとれる。子安観音塚古墳の副葬品と思われるが、江戸時代に大雨により出土したことがあり、守住貫魚により描かれた絵図が残っている。



三角板鋸留短甲復元図(橋本達也氏の復元案に着色)

文化財図鑑
 古代より荘園が置かれ、海陸交通の要衝として栄えてきた小松島は、古くから大阪、神戸、和歌山など近畿圏との結びつきが強く、貴重な文化財が数多く残されている。



絹本着色釈迦三尊像
 (立江寺・国指定重要文化財)

四国霊場第19番札所で八十八カ所の4つの関所の一つ立江寺の寺宝。鎌倉時代の名作。釈迦如来と白象に乗った普賢菩薩、獅子に乗った文殊菩薩がリアルに描かれた気品の高い作品。



袈裟禪文銅鐺
 (徳島県立博物館・県指定文化財)

田野町勢合から1個出土した銅鐺。扁平鈕式の六区画袈裟禪文銅鐺で、鈕の部分を一部欠損した状態。高さ39cmある。



恩山寺ピランジュ
(恩山寺・県指定天然記念物)

恩山寺山門を入ったところにある、空海の手植えと伝えられる巨木(樹高18m)。樹周1~2mの三樹が合体して一株となり、東西19m、南北18mに及ぶ。樹姿の優れているものは珍しい。



天王社稚児三番叟
(田野町・県指定無形文化財)

室町時代から伝承されてきたもので、猿楽の能「翁」を原型としたものといわれ、毎年10月第4土・日曜日の天王社の秋祭りの日に、神前の舞台上で厳かに行われる。

櫛淵のフウ

(櫛淵八幡神社・県指定天然記念物)

櫛淵八幡神社境内にあるマンサク科の落葉喬木。大正の初め頃に敬義会のメンバーが植えたもので、成長が早く今では樹幹の周囲が2m近くに及んでいる。紅葉が美しい。



弁慶の岩屋

(県指定史跡)

旗山の近くの丘陵の中腹に7世紀後半につくられた古墳で、巨大な自然石を使って作られた横穴式の石室があり、強力な弁慶でなければできないだろうと名付けられた。



法華経

(桂林寺所蔵・県指定文化財)

黄染紙に木版刷りの卷子本、全部で8巻。文安4年(1447)足利将軍家より阿波細川家第6代細川持常が賜ったもの。



地藏寺玄関および書院

(県指定文化財・建造物)

足利氏ゆかりの平島公方の館を文化3年(1806)年に移築したとされるもので、江戸中期から後期の特色をよく示す風格ある建物。本堂玄関の太い柱が特徴。



金磯のアコウ

(金磯町・県指定天然記念物)

アコウは桑科に属する熱帯産の常緑喬木で、弁天山の北側に自生しているアコウは我が国における自然分布の北限を示すものとして学会で紹介されている貴重なもの。

その他の県指定文化財

木造阿弥陀如来立像

(成願寺・県指定文化財)

像高179.2cm。素材の木目を巧みに生かした楠木の一本造り。丸味のある容姿、衣文線の重厚さから平安前期の作と思われる。

木造薬師如来座像

(現福寺・県指定文化財)

現福寺の本尊。弘法大師の作と伝えられる像高83cmの寄せ木造り、左右に12神将が配されている。面相は円満な慈悲相で鎌倉初期の作。

Komatsushima has a close connection with the Kinki region including Osaka, Kobe and Wakayama, and has been flourishing as an important center of transportation by land and sea since its early days. Therefore, a large number of important cultural treasures, such as Buddhist architecture, artistic handicrafts, paintings, calligraphic works, Buddhist statues and traditional dances, have been preserved in the city.